

今月十一日、福島県南相馬

市に「ベテランママの会」代

表の番場さち子さんを訪ね、

一緒に祈りをささげました。

悲しみが癒えぬまま、原発事

故関連のいじめや差別に傷つ

く方々に寄り添う会の活動

に、改めて敬意を表します。

番場さんの知人でトルコか

らの留学生二人も、わが事

のように悲しんでいました。写

東北 復興日記



▶▶ 212

まだまだ



星槎大学副学長

細田満和子さん



差別は排除の心理から

真。同じ場所に立つと、家族や愛する人への思いは同じだと分かります。しかし遠く離れていると情報は伝わらず、差別や偏見が生まれ、思いの共有は難しく、人と人が分断されてしまいがちです。

スティグマ(負の烙印)は「外」と「内」を分けて、外を排除し、内の中で安心しようとする心理から生じます。しかし、原発事故が起きた「福島」と、「自分」とを差異化しようとする人々は、この心理の構造に抵抗しない限り、自らが差別されることにもなりかねません。というの

も「日本全体が放射能に汚染されている」との誤ったイメージを持つ外国人は少なくないのです。福島を差別する人は、自分たちも偏見にさらされる可能性に気付いているのでしょうか。

偏見を無くすには思考停止に陥らないことが重要です。そのためには正しく知ることが必要であり、番場さんが作成する「放射線基礎知識テスト」はとても有効な手段だと思います。

で、ベテランママの会のニッ・サークルの作品展示即売を企画しています。苦しみの中でも、仲間と共に日々の生活に楽しみを見いだす福島の女性たちのことを、世界中に伝えたいものです。人々がつながれば、偏見は払拭されスティグマは解消されるでしょう。福島に住むことに誇りをもち笑顔になれるよう、今後とも応援します。

◇ 細田さんと番場さんとの往復書簡の形でお届けしています。

※この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。